

Accuphase

# PRECISION STEREO PREAMPLIFIER

プレジジョン・ステレオ・プリアンプ

## C-3900S

### 取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み  
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか  
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## 5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

\*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは22ページをご参照ください。

\*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

### ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。



## マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



## 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

## 付属品をご確認ください

- 取扱説明書(本書) ..... 1冊
- プラグ付きオーディオ・ケーブル(1m) (ASL-10B) ... 1組
- 安全上のご注意 ..... 1冊
- AC電源コード(2m) (APL-1) ..... 1本
- 品質保証書について / お客様カード(保証書発行はがき) ..... 1枚
- 単3乾電池 ..... 2個
- 目隠しシール ..... 1枚
- リモート・コマンダー RC-260 ..... 1個
- クリーニング・クロス ..... 1枚

### 著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

### 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用したりするののも一つの方法です。

## 目次

付属品を確認ください ..... 表紙裏頁

## 1. 安全上必ずお守りください ..... 2,3

- ▲警告 ..... 2
- ▲注意 ..... 3
- 快適にお使いいただくために ..... 3
- ご留意いただきたい事項 ..... 3
- お手入れ ..... 3

## 2. 各部の名前 ..... 4

- フロント・パネル ..... 4
- リア・パネル ..... 4

## 3. 接続図 ..... 5

## 4. リモート・コマンダーのご使用方法 ..... 6

## 5. 各部の動作説明 ..... 7~13

- フロント・パネル ..... 7~11
- 1 電源スイッチ ..... 7
- 2 INPUTセレクター ..... 7
- 3 VOLUMEノブ ..... 7
- 4 OPENボタン ..... 8
- 5 ヘッドフォン端子 ..... 8
- 6 ATTENUATORボタン ..... 8
- 7 BALANCEノブ ..... 9
- 8 GAINスイッチ ..... 9
- 9 OUTPUTスイッチ ..... 9
- 10 PHASEボタン ..... 10
- 11 MONOボタン ..... 10
- 12 RECORDERボタン ..... 10
- 13 COMPENSATORスイッチ ..... 11
- 14 PHONES LEVELスイッチ ..... 11
- 15 DISPLAYボタン ..... 11
- 16 入力ディスプレイ部 ..... 11
- 17 リモート・センサー ..... 11
- 18 VOLUMEディスプレイ部 ..... 11

## リア・パネル ..... 12,13

- 19 ライン入力端子  
LINE AD, TUNER, CD, LINE 1~3 ..... 12
- 20 バランス入力端子  
BAL AD, BAL CD, BAL 1, 2 ..... 12
- 21 RECORDER端子 PLAY, REC ..... 12
- 22 ライン出力端子 LINE 1, 2 ..... 12
- 23 バランス出力端子 BAL 1, 2 ..... 12
- 24 外部プリアンプ(ライン)入力端子  
EXT PRE INPUTS(LINE) ..... 12
- 25 外部プリアンプ(バランス)入力端子  
EXT PRE INPUTS(BAL) ..... 13
- 26 ACコンセント ..... 13
- 27 AC電源コネクター ..... 13

## 6. ご使用方法 ..... 14~18

- スイッチ類の初期設定 ..... 14
- 6-1 CDプレーヤーでの音楽鑑賞 ..... 14
- 6-2 チューナーでの放送の鑑賞 ..... 14
- 6-3 レコーダーでの録音・再生 ..... 15
- 電源OFF時のチューナー録音 ..... 15
- 6-4 別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏 ..... 16
- 6-5 アナログ・ディスク(AD)の演奏 ..... 17
- ステレオ・フォノアンプとの接続例 ..... 17
- 演奏の手順 ..... 17
- 6-6 VOLUMEディスプレイ部の《表示モード》変更 ..... 18

## 7. 保証特性 ..... 19

## 8. ブロック・ダイアグラム ..... 20

## 9. 故障かな?と思われるときは ..... 21

## 10. アフターサービスについて ..... 22

安全上必ず  
お守りください

各部の名前

接続  
図リモート・コマンダー  
のご使用方法

各部の動作説明

ご使用方法

保証  
特性ブロック・  
ダイアグラム故障かな?と  
思われるときはアフターサービス  
について

# 1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

## 警告

### ■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

### ■付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。

- 感電や火災の原因となります。

### ■ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

- 感電の原因となります。

### ■電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。

- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

### ■放熱のため本機の周辺は他の機器や壁等から十分間隔(10cm以上)を空ける。

### ■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

### ■ウッド・キャビネットやボトム・プレート(底板)などの外装パーツは絶対に外さない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

### ■火災又は感電を防止するために、屋外、雨がかかる場所及び湿気の多い場所では絶対に使用しない。

### ■脚の交換は危険なので行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

### ■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損したりした場合。
- \* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしなければ、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- \* 万一の場合、電源プラグをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

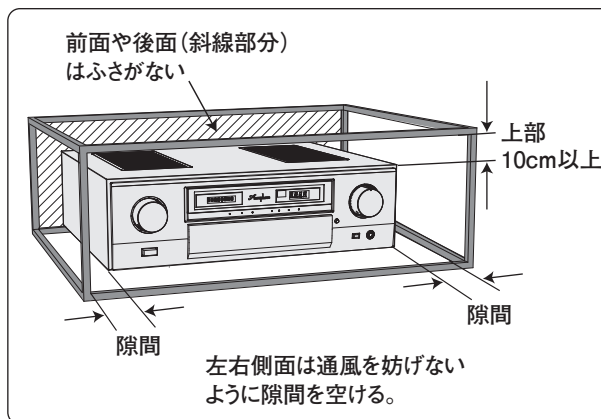
## ラックに設置する場合

### ■密閉されたラックには設置しない。

### ■前面と後面がふさがれたラックには設置しない。

### ■製品の左右や上部に十分な隙間を確保する。

- 通風が確保されないと本機の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



## 注意

### ■ 次のような場所へは設置しない。

故障の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くの場所
- 極端に温度の低い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

### ■ 本機を立てて設置しない。

火災や故障となるおそれがあります。

### ■ パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。

故障の原因となります。

### ■ 長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。

より安全にお使いいただけます。

### ■ 接続ケーブルを抜き差しする場合は、必ず各機器の電源を切る。

特に電源を入れたままRCAタイプのピンプラグを抜き差しすると、大きなショック・ノイズが発生し、スピーカーが破損するおそれがあります。

### ■ 室温35℃以下で使用する。

故障の原因となります。

## 快適にお使いいただくために

■ 本機と他の製品1台との接続の際、バランスケーブルとライン(アンバランス)ケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ 電源スイッチを切ってから10秒以内に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となります。

■ 電源スイッチは、ボリュームを下げてから切ることをおすすめいたします。次回の演奏時に、急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ ヘッドフォンを使用するときは、本機のボリュームを下げることをおすすめいたします。

スピーカーやヘッドフォンから急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ レコード・プレーヤーのアームを操作するときは、本機のボリュームを下げるか、ATTENUATORボタンをご活用ください。

大きな音でスピーカーを破損するおそれがあります。

## ご留意いただきたい事項

■ 本機のボリューム・コントロールは、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチで切り替えるAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を採用しています。高能率スピーカーをお使いで、ボリュームやバランスの調整を行う際に、電流スイッチの切り替え動作音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。

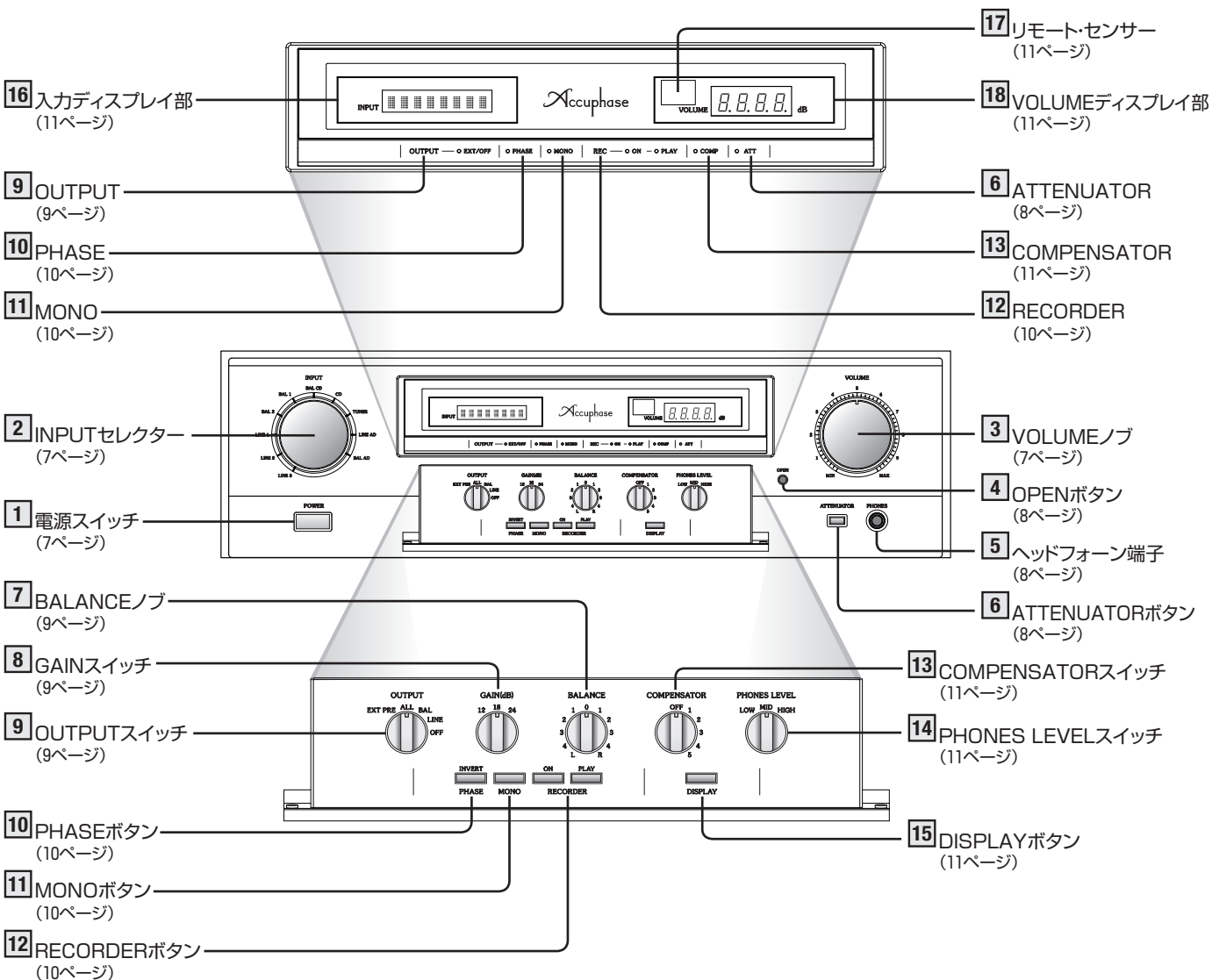
## お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクロスを使用してください。特にウッド・キャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後は、よく水洗いし乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。

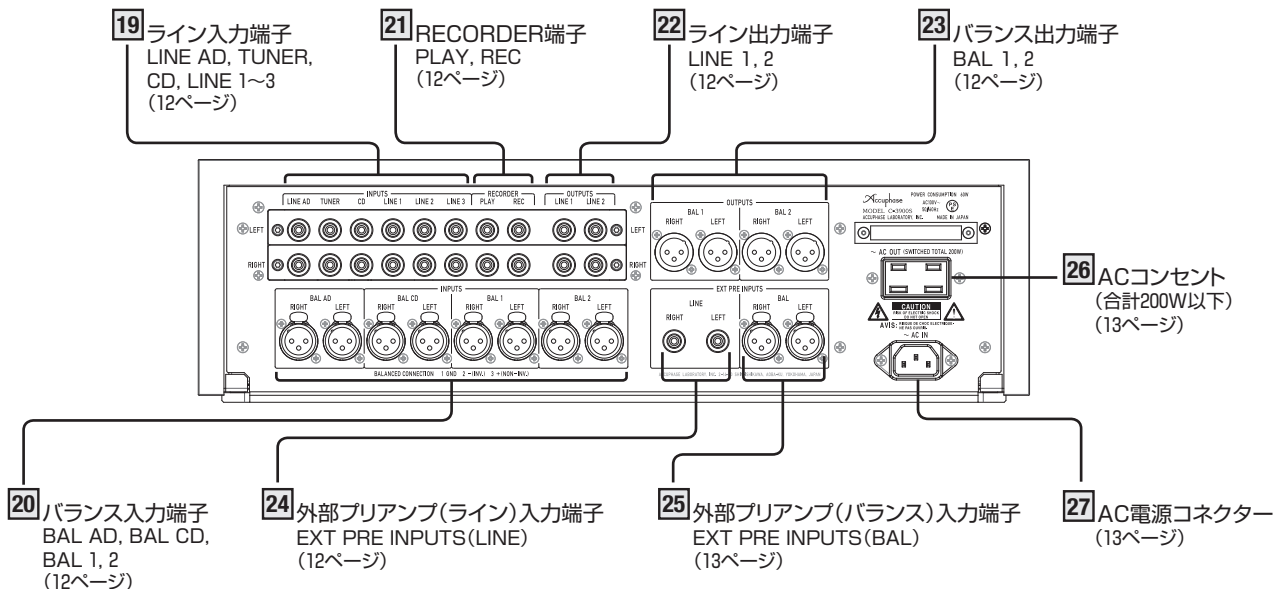
## 2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目( )内のページを参照してください。

### フロント・パネル



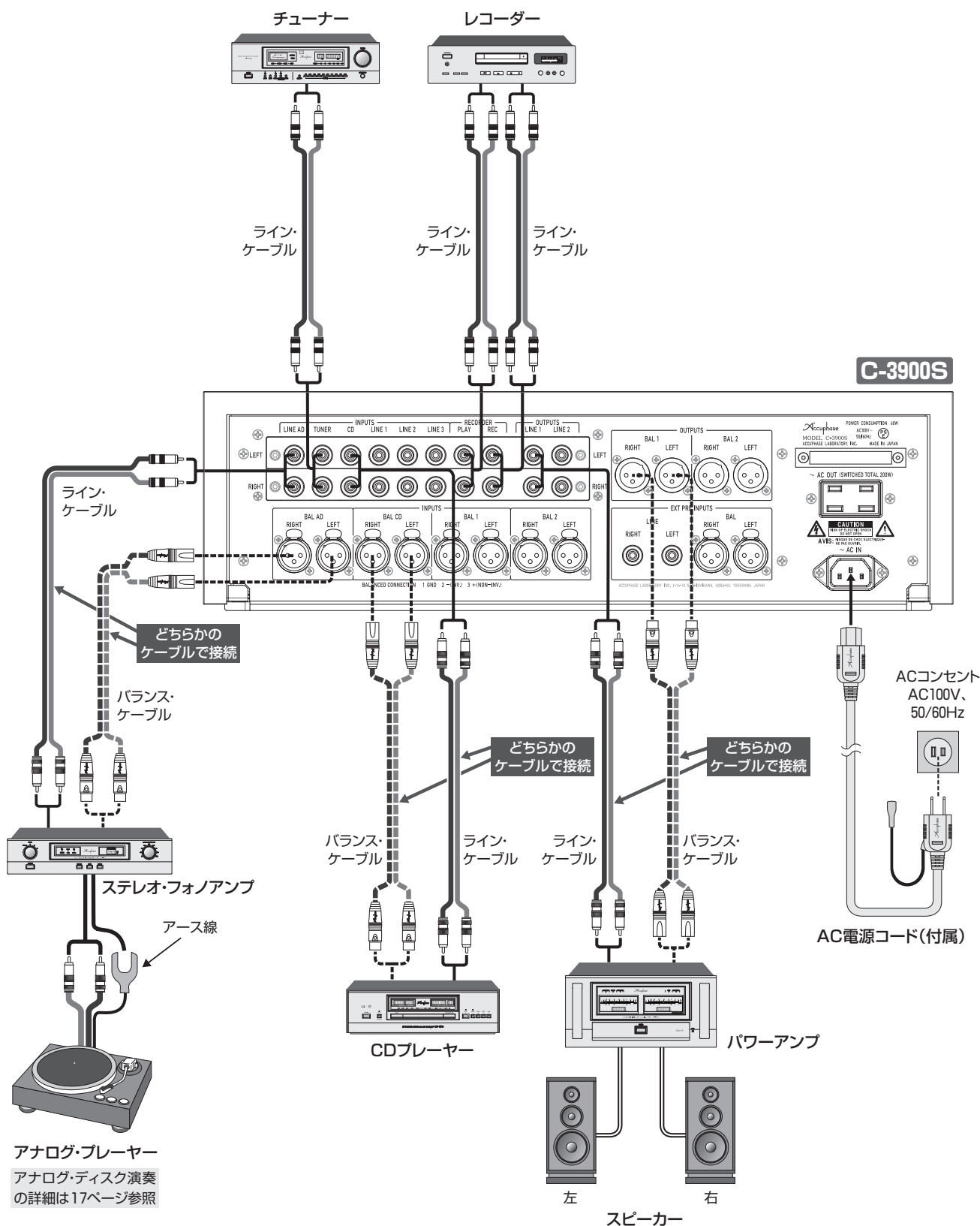
### リア・パネル



### 3. 接続図

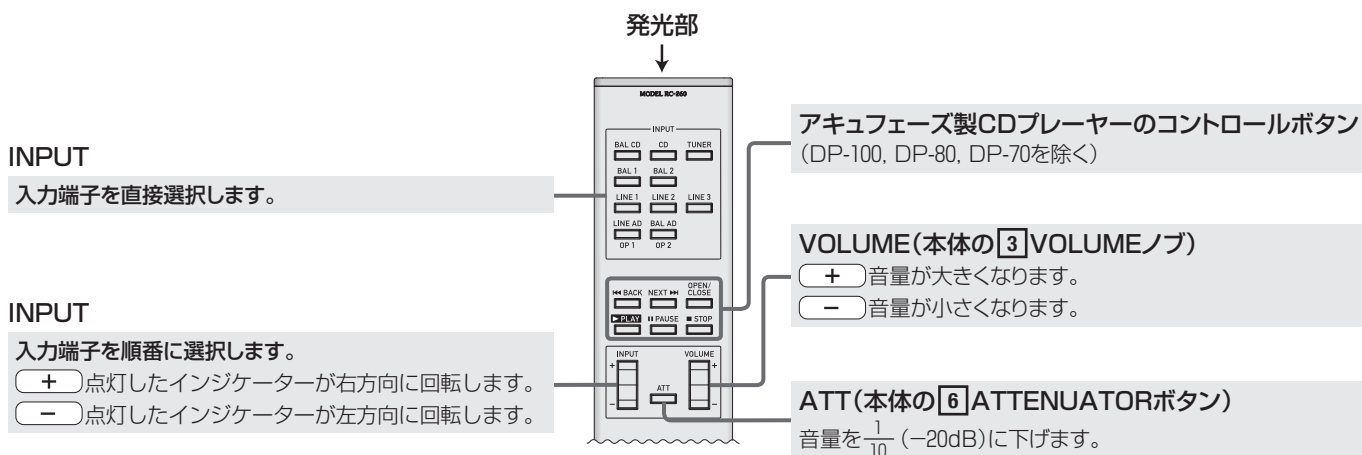
**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT、RIGHTを正しく接続してください。
  - 同一機種同士でバランス用とライン用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。ノイズを発生させる原因となります。

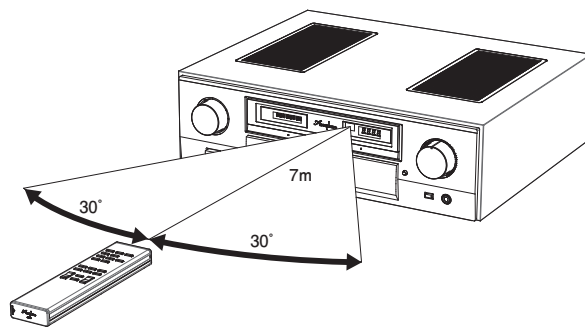


各部の名前  
接続図

# 4. リモート・コマンダーのご使用方法



リモート・コマンダーの発光部を本機のフロント・パネルに向けて、右図の範囲内でご使用ください。



## 警告

- 電池ケースの電極部に金属類を接触させない。
  - 乾電池を充電しない。
  - 乾電池を逆向きに入れない。
  - 古い乾電池と新しい乾電池を混用しない。
  - メーカー、種類、型番の異なる乾電池を混用しない。
  - 使い切った乾電池を入れたままにしない。
  - 乾電池を火に投入したり、加熱したりしない。
  - 乾電池を炎天下や暖房器具のそばなど、極端に温度が高くなるところに放置しない。
  - 乾電池を押し潰したり、切断したりしない。
- 乾電池の破裂、発火、発熱、液漏れ、ガスの発生、故障、劣化により、火災やけがとなるおそれがあります。

## 注意

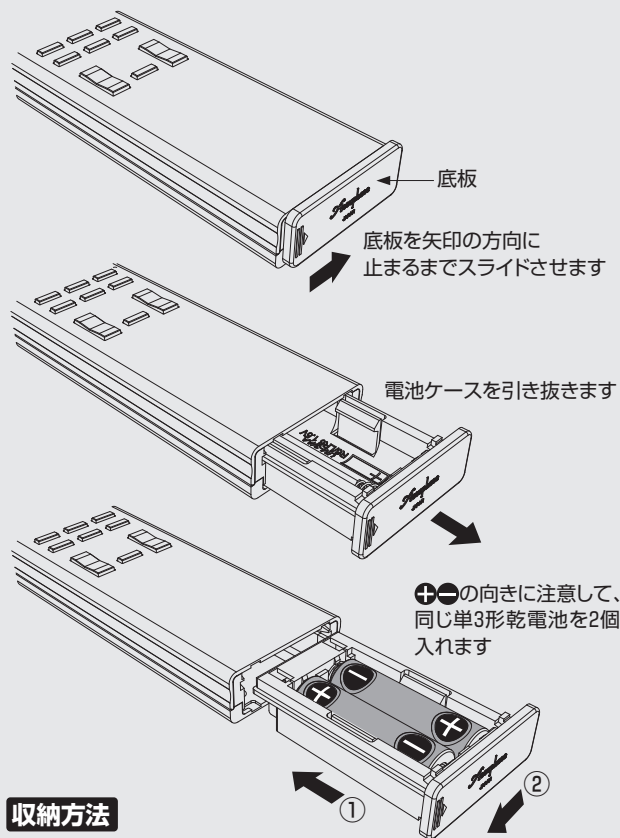
- 乾電池を廃棄する場合は、法律、条例などで定められた方法にしたがってください。
- 長期間にリモート・コマンダーを使わないときは、乾電池を抜いてください。
- リモート・コマンダーを落下させないでください。
- リモート・コマンダーに液体をこぼさないでください。
- 乾電池が液漏れしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。
- 乾電池から漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

## メモ

- 操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期です。
- テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがありますが、故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離したりしてお使いください。

## 乾電池の入れ方

新品の同じ2個の乾電池を、向きに注意しながら入れてください。



## 収納方法

- ① 電池ケースを奥まで挿入します
- ② 底板を矢印方向にスライドさせて固定します



# 5. 各部の動作説明

## フロント・パネル

### 1 電源スイッチ

電源をON/OFFするためのスイッチです。



### 注意

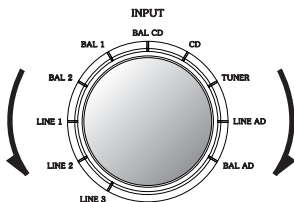
電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

### メモ

- 電源を入れてから回路が安定するまでの3秒間は、信号を出力しません。
- 電源OFF時でも別系統のプリアンプによる演奏が可能です。詳細は“別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏”(16ページ)をご覧ください。
- 電源OFF時でもタイマーによる留守録音が可能です。詳細は“電源OFF時のチューナー録音”(15ページ)をご覧ください。

### 2 INPUTセクター

入力端子を選択するためのセクターです。選択した入力端子のインジケータが点灯します。INPUTセクターにはストッパーのないエンドレス・タイプを採用しています。



19 ライン入力端子	LINE AD, TUNER, CD, LINE 1~3
20 バランス入力端子	BAL AD, BAL CD, BAL 1, 2

リモート・コマンダーでも選択が可能です。

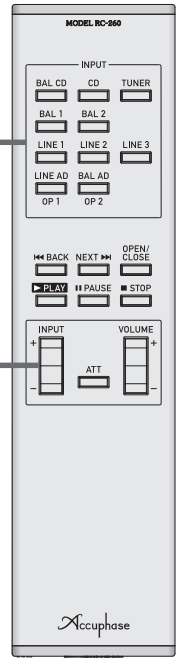
### INPUT

入力端子を直接選択します。本体の 2 INPUTセクターの周囲にある、選択した入力端子のインジケータが点灯します。

### INPUT

入力端子を順番に選択します。本体の 2 INPUTセクターの周囲にある、入力端子のインジケータが移動します。

- + 点灯したインジケータが右方向に回転します。
- 点灯したインジケータが左方向に回転します。



リモート・コマンダー  
のご使用方法

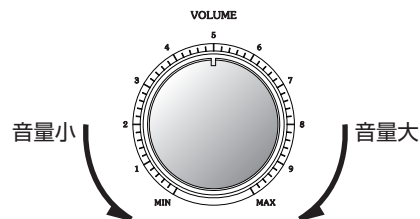
各部の動作説明

### 3 VOLUMEノブ

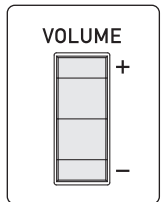
音量を調整するためのノブです。

18 VOLUMEディスプレイ部の表示を確認しながら音量を調整します。

リモート・コマンダーでも調整が可能です。



### リモート・コマンダー

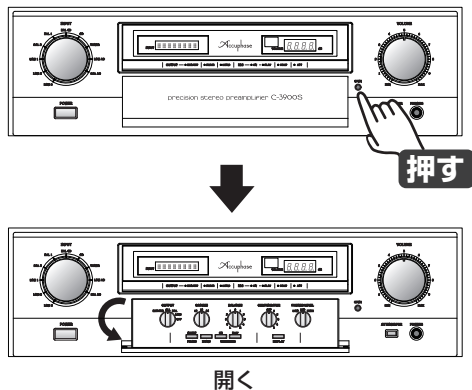


## 4 OPEN ボタン

サブパネルを開くためのボタンです。

### サブパネルの開け方

OPENボタンを押すとサブパネルが開きます。

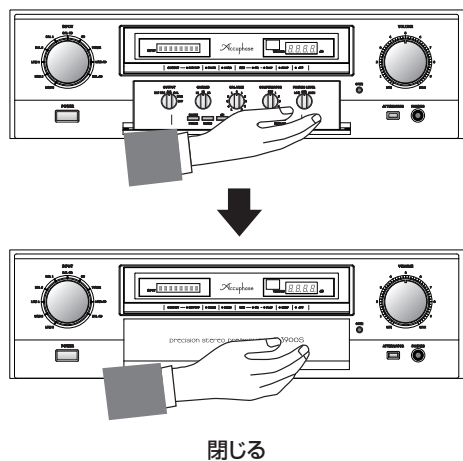


### ◆注意

サブパネルの縁に指をかけて直接開けないでください。開閉機構を破損する恐れがあります。

### サブパネルの閉じ方

サブパネルを手で持ち上げて閉じます。



## 5 ヘッドフォン端子

ヘッドフォンで演奏を楽しむための端子です。

- **2** INPUTセレクターや**12** RECORDERボタンで選択した信号を、この端子から出力します。
- ヘッドフォンだけで音楽を楽しむ場合には、パワーアンプの電源を切るか、**9** OUTPUTスイッチをOFFにします。
- ヘッドフォンの音量は本機の**3** VOLUMEノブでコントロールします。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。ただし、インピーダンスが高くなるにつれて得られる音量は小さくなりますので、100Ω以上のインピーダンスや低い効率のヘッドフォンでは、十分な音量が得られない場合があります。

## ⚠ 注意

ヘッドフォンで演奏中、パワーアンプの電源が入った状態で**9** OUTPUTスイッチをOFF以外にすると、スピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量にご注意ください。

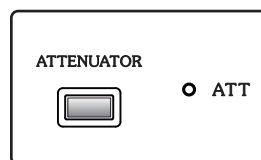
### メモ

**9** OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、**2** INPUTセレクターや**12** RECORDERボタンで選択した信号を、この端子から出力します。

## 6 ATTENUATOR ボタン

本機の出力レベルを瞬時に下げるためのボタンです。減衰量は20dB( $\frac{1}{10}$ )です。

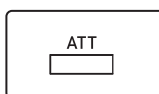
レコード・プレーヤーのアームを操作するときなどにお使いいただけます。



LED	ATTENUATOR
消灯 (出荷設定)	OFF
点灯	ON

リモート・コマンダーでも操作が可能です。

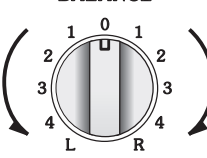
### リモート・コマンダー



## 7 BALANCEノブ

左右の音量バランスを調整するためのノブです。  
BALANCEノブを回すと、**16**入力ディスプレイ部に、変化量（左右レベルの差）が5秒間表示されます。  
通常はセンター(0)で使います。

### 16 入力ディスプレイ部

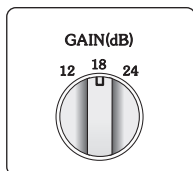
左側	センター	右側
0.2dB	CENTER	0.2dB
0.4dB	(出荷設定)	0.4dB
⋮	BALANCE	⋮
60.0dB		60.0dB
70.0dB		70.0dB
LEFT		RIGHT

CENTER	~	5.0dB	0.2dBステップ
5.0dB	~	10.0dB	0.5dBステップ
10.0dB	~	20.0dB	1.0dBステップ
20.0dB	~	30.0dB	2.0dBステップ
30.0dB	~	50.0dB	5.0dBステップ
50.0dB	~	70.0dB	10.0dBステップ

調整ステップ

## 8 GAINスイッチ

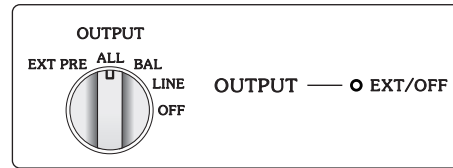
本機の増幅度を切り替えるためのスイッチです。  
12dB、18dB、24dBの値は、ボリュームMAX時の増幅度を示します。



GAINスイッチ	ゲイン
12dB	小
18dB (出荷設定)	中(通常)
24dB	大

音楽ソフトの録音レベル、ソース側機器の出力、パワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などにより、通常プリアンプのボリュームの位置は大きく変化します。  
GAINスイッチは本機のゲインを切り替えて、好みの位置でボリューム・コントロールを可能にするためのスイッチです。

## 9 OUTPUTスイッチ



### ALL/BAL/LINE/OFF

ALL/BAL/LINE/OFFは、信号を出力する出力端子を選択するためのポジションです。  
通常はALLを選択します。

OUTPUTスイッチ	LED	22 ライン出力	23 バランス出力
ALL (出荷設定)	消灯	有	有
BAL	消灯	無	有
LINE	消灯	有	無
OFF	点灯	無	無

### EXT PRE

EXT PREは、別系統のプリアンプやAVアンプで演奏するためのポジションです。詳細は“別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏”(16ページ)をご参照ください。

OUTPUTスイッチ	LED	22 ライン出力	23 バランス出力
EXT PRE	点灯	24 外部プリアンプ(ライン)入力端子に入力した信号	25 外部プリアンプ(バランス)入力端子に入力した信号

### メモ

ヘッドフォン出力はOUTPUTスイッチに関係なく出力されます。ヘッドフォン出力だけを楽しむ場合は OUTPUTスイッチを“OFF” にしてください。

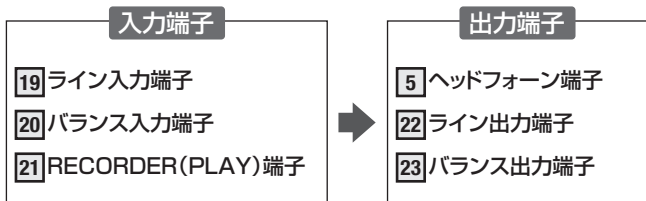
## 10 PHASE ボタン

出力信号の位相(PHASE)を反転させるためのボタンです。



LED	出力信号
消灯	同相 (出荷設定)
点灯	逆相

「PHASE」を点灯させると下記入力端子に入力した信号の位相を反転して、下記出力端子に出力します。



バランス・ケーブルで接続した機器の極性と本機の極性が異なる場合などにご使用いただけます。  
位相は合わせなくても再生可能です。

### メモ

- 設定した位相は、電源を切っても入力端子毎に記憶しており、LEDで確認できます。
- 「PHASE」を点灯させても **21** RECORDER(REC)出力の位相は反転しません。
- PHASEボタンを操作すると、**22** ライン出力及び **23** バランス出力の位相は同時に切り替わります。個別に切り替えることはできません。
- 「PHASE」を点灯させても **24** 外部プリアンプ(ライン)入力及び **25** 外部プリアンプ(バランス)入力の位相を反転させることはできません。
- 本機の位相は、下記一覧表を目安に設定してください。

入力側機器と出力側機器の両方が同相または逆相の場合、本機は同相に設定します。

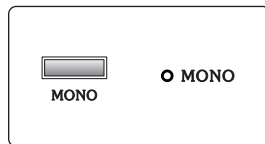
入力側機器	出力側機器	本機の設定
BAL 3+ (同相)	BAL 3+ (同相)	同相 (LED消灯)
LINE (同相)	LINE (同相)	
BAL 3+ (同相)	LINE (同相)	
LINE (同相)	BAL 3+ (同相)	
BAL 2+ (逆相)	BAL 2+ (逆相)	

入力側機器と出力側機器の一方が逆相の場合、本機は逆相に設定します。

入力側機器	出力側機器	本機の設定
BAL 3+ (同相)	BAL 2+ (逆相)	逆相 (LED点灯)
LINE (同相)	BAL 2+ (逆相)	
BAL 2+ (逆相)	BAL 3+ (同相)	
BAL 2+ (逆相)	LINE (同相)	

## 11 MONO ボタン

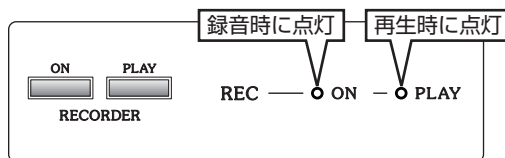
ステレオとモノフォニックを切り替えるためのボタンです。  
モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、左右に同じ信号を出力します。



LED	出力信号
消灯	ステレオ (出荷設定)
点灯	モノフォニック

## 12 RECORDER ボタン

**21** RECORDER端子に接続したレコーダーで録音・再生をする場合に使用します(詳細は15ページ参照)。



### RECORDER ON

INPUTセクターで選んだ信号が **21** RECORDER REC端子に出力され、レコーダーで録音可能になります。

#### 録音

- ONを押して録音 ディスプレイ部: 「ON」点灯
- 再び押すと録音OFF ディスプレイ部: 「ON」消灯

### RECORDER PLAY

**21** RECORDER PLAY端子に接続した信号を再生します。

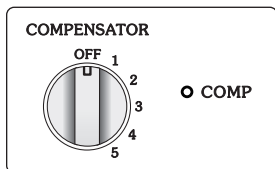
#### 再生

- PLAYを押して再生 ディスプレイ部: 「PLAY」点灯
- 再び押すと再生OFF ディスプレイ部: 「PLAY」消灯

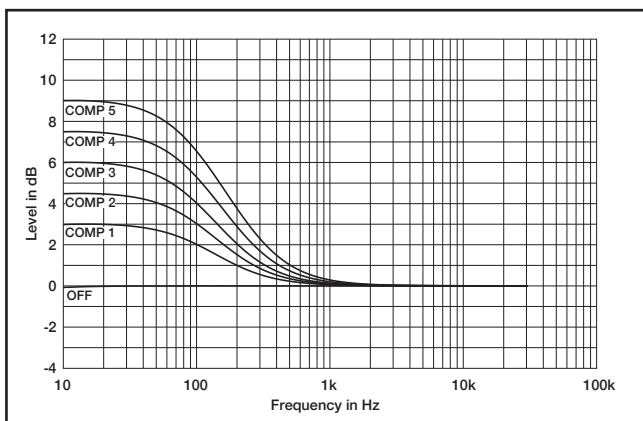
## 13 COMPENSATORスイッチ

小音量での音楽鑑賞時に、低音不足を補うことで、聴感上のエネルギー・バランスを整えるためのスイッチです。

5種類の補正強度の中から選択可能です。



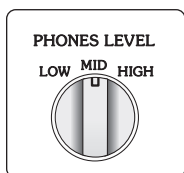
COMPENSATOR	強度	LED
OFF (出荷設定)		消灯
1	弱 ↑ ↓ 強	点灯
2		
3		
4		
5		



コンペンセーター特性

## 14 PHONES LEVELスイッチ

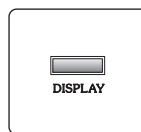
ヘッドフォン出力のレベルを切り替えるためのスイッチです。ヘッドフォンの感度に合わせて、**3**VOLUMEノブを使いやすい位置に調整します。



PHONES LEVEL	ヘッドフォン出力
HIGH	10dB高い
MID (出荷設定)	標準
LOW	10dB低い

## 15 DISPLAYボタン

**16**入力ディスプレイ部と**18**VOLUMEディスプレイ部の表示を消灯させるためのボタンです。



### メモ

消灯時でも以下の機能を実行すると、5秒間表示を行います。

<b>2</b> INPUTセレクトター	*ゲイン・モード表示時(18ページ)
<b>3</b> VOLUMEノブ	<b>6</b> ATTENUATORボタン
<b>7</b> BALANCEノブ	<b>8</b> GAINスイッチ

## 16 入力ディスプレイ部

**2** INPUTセレクトター(またはリモート・コマンダー)で選択された入力が表示されます。

### 表示例

BAL CD → BAL CD

### メモ

**7** BALANCEノブを回すと、入力ディスプレイ部に、変化量(左右レベルの差)が5秒間表示されます(9ページ)。

## 17 リモート・センサー

リモート・コマンダー用のセンサーです。

リモート・コマンダーの操作が可能な範囲については、6ページをご参照ください。

## 18 VOLUMEディスプレイ部

**3** VOLUMEノブで設定した音量レベルを表示します。

### メモ

出荷設定は、最大値を0dBとし、減衰量を表示する『アッテネーター・モード』ですが、増幅度を表示する『ゲイン・モード』への切り替えも可能です(18ページ)。

## リア・パネル

**19** ライン入力端子  
LINE AD, TUNER, CD, LINE 1~3

一般的なハイレベル入力端子です。  
使い勝手を考慮し、TUNERやCDの名称が付いていますが、同じ仕様の入力端子です。

## メモ

- レコード・プレーヤーの出力を接続してアナログ・ディスクの演奏はできません。
- TUNER端子は電源OFF時のタイマーによる留守録音に活用できます(15ページ“電源OFF時のチューナー録音”参照)。

**20** バランス入力端子  
BAL AD, BAL CD, BAL 1,2

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力端子です。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。



1	GND
2	-
3	+

## メモ

- 接続機器の極性が本機と異なる場合は、**10** PHASEボタンで合わせることができます。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です(10ページ)。
- 当社製のバランス・ケーブルをご用意しています。

**21** RECORDER端子  
PLAY, REC

レコーダーを接続し、録音や再生をするための端子です。  
接続については5ページ、操作については15ページをご参照ください。

**22** ライン出力端子  
LINE 1, 2

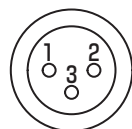
ラインケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

## メモ

電源OFF時には、**24**外部プリアンプ(ライン)入力端子に入力した信号を出力します(16ページ)。

**23** バランス出力端子  
BAL 1, 2

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力端子です。パワーアンプが、バランス入力端子を装備している場合に接続可能です。



1	GND
2	-
3	+

## メモ

- 接続機器の極性が本機と異なる場合は、**10** PHASEボタンで合わせることができます。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です(10ページ)。
- 電源OFF時には、**25**外部プリアンプ(バランス)入力端子に入力した信号を出力します(16ページ)。
- 当社製のバランス・ケーブルをご用意しています。

**24** 外部プリアンプ(ライン)入力端子  
EXT PRE INPUTS(LINE)

別系統のプリアンプで演奏を行うためのライン入力端子です。  
詳細は“別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏”(16ページ)をご参照ください。

## メモ

この端子に入力された信号を、**23**バランス出力端子に出力することはできません。

## 25 外部プリアンプ(バランス)入力端子 EXT PRE INPUTS(BAL)

別系統のプリアンプで演奏を行うためのバランス入力端子です。詳細は“別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏”(16ページ)をご参照ください。

### メモ

この端子に入力された信号を、**22**ライン出力端子に出力することはできません。

## 26 ACコンセント

本機の**1**電源スイッチと連動するACコンセントです。他の機器の電源をこのACコンセントに接続すれば、本機と同時に電源をON/OFFすることができます。

### 注意

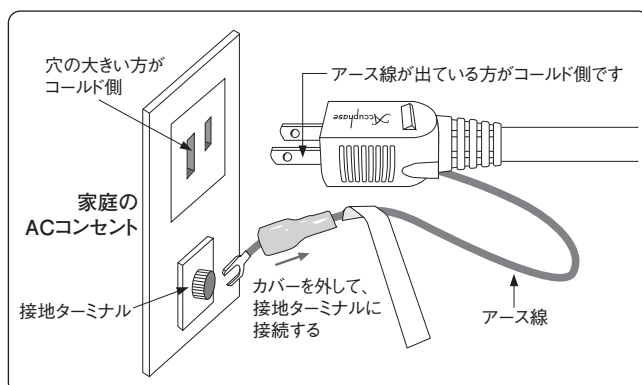
接続する機器の消費電力は200Wを超えないようにする。

### メモ

ACコンセントは下側がコールドです。

## 27 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



### 警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

#### ■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

#### ■アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

#### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

### メモ

- 本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。
- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位を逆に表示することがあります。



**注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。  
感電や故障するおそれがあります。

## 6. ご使用方法

**スイッチ類の初期設定** スイッチ類を初期設定に戻したい場合には、以下のように設定します。

スイッチ類	初期設定
<b>2</b> INPUT	BAL CD
<b>3</b> VOLUME	MIN
<b>6</b> ATTENUATOR	OFF(消灯)
<b>7</b> BALANCE	0(センター)
<b>8</b> GAIN	18dB
<b>9</b> OUTPUT	ALL
<b>10</b> PHASE	OFF(消灯)

スイッチ類	初期設定
<b>11</b> MONO	OFF(消灯)
<b>12</b> RECORDER ON	OFF(消灯)
<b>12</b> RECORDER PLAY	OFF(消灯)
<b>13</b> COMPENSATOR	OFF(消灯)
<b>14</b> PHONES LEVEL	MID
<b>15</b> DISPLAY	ON(点灯)

### 6.1 CDプレーヤーでの音楽鑑賞

**接続** \*接続図は5ページ参照

CDプレーヤーの出力端子 ➡ 本機の**19**ライン入力端子または**20**バランス入力端子  
 本機の**22**ライン出力端子または**23**バランス出力端子 ➡ パワーアンプの入力端子

#### 操作

- 1** **3** VOLUMEノブが最小値であることを確認します。
- CDプレーヤー、本機及びパワーアンプの電源を入れます。
- 3** **2** INPUTセレクターでCDプレーヤーを接続した入力端子を選択します。
- CDプレーヤーを再生状態にします。
- 3** VOLUMEノブを回すと演奏が聴こえます。

### 6.2 チューナーでの放送の鑑賞

**接続** \*接続図は5ページ参照

チューナーの出力端子 ➡ 本機の**19**ライン入力端子または**20**バランス入力端子  
 本機の**22**ライン出力端子または**23**バランス出力端子 ➡ パワーアンプの入力端子

#### 操作

- 1** **3** VOLUMEノブが最小値であることを確認します。
- チューナー、本機及びパワーアンプの電源を入れます。
- 3** **2** INPUTセレクターでチューナーを接続した入力端子を選択します。
- チューナーを放送局に同調させます。
- 3** VOLUMEノブを回すと放送が聴こえます。

#### メモ

本機の電源OFF時に、チューナーで受信した放送をタイマーで録音したい場合は、15ページの“電源OFF時のチューナー録音”をご参照ください。





**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。  
感電や故障するおそれがあります。

## 6.3 レコーダーでの録音・再生

**接続** \*接続図は5ページ参照

本機の **21** RECORDER (REC) 端子 ➡ レコーダーのライン入力端子

本機の **21** RECORDER (PLAY) 端子 ← レコーダーのライン出力端子

\*レコーダーを再生だけに使用する場合は、**21** RECORDER (PLAY) 端子の代わりに **19** ライン入力端子へ接続することも可能です。

### 録音

- ① **3** VOLUMEノブが最小値であることを確認します。
- ② レコーダーと本機の電源を入れます。
- ③ **2** INPUTセレクターで録音するプログラム・ソースを選択します。
- ④ **3** VOLUMEノブを回してプログラム・ソースを確認します。
- ⑤ **12** RECORDERボタンの“ON”を押すと、プログラム・ソースが **21** RECORDER (REC) 端子から出力されます。  
\***12** RECORDERボタンの詳細については、10ページをご参照ください。
- ⑥ レコーダーの録音をスタートすると、プログラム・ソースが録音されます。



### メモ

- 本機のボリューム、アッテネーター、ゲイン、コンペンセーター、バランス等は、録音される音に関係しませんので、音量を下げて録音することが可能です。
- 録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
- **12** RECORDERボタンの“PLAY”を押すと、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

### 再生

- ① **3** VOLUMEノブが最小値であることを確認します。
- ② レコーダーと本機の電源を入れます。
- ③ **12** RECORDERボタンの“PLAY”を押します。  
\***12** RECORDERボタンの詳細については、10ページをご参照ください。
- ④ レコーダーを再生状態にします。
- ⑤ **3** VOLUMEノブを回すと演奏が聴こえます。



### 電源OFF時のチューナー録音

電源がOFFの時は、**2** INPUTセレクターや**12** RECORDERボタンのポジションに関係なく、**19** TUNER端子に入力された信号が、**21** RECORDER (REC) 端子に出力されます。したがって、チューナーで受信した放送をタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能です。

#### ◆注意

『電源OFF時』での録音中に本機の電源を入れると、録音が途切れたり、終了したりしますので、『電源OFF時』での録音中は本機の電源を入れしないでください。

**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。  
感電や故障するおそれがあります。

## 6.4 別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏

別系統のプリアンプやAVアンプの出力を本機の[24][25]外部プリアンプ入力端子へ接続すれば、パワーアンプへの接続を変えることなく、別系統のプリアンプの演奏を同じスピーカーでお楽しみいただけます。

### 操作方法

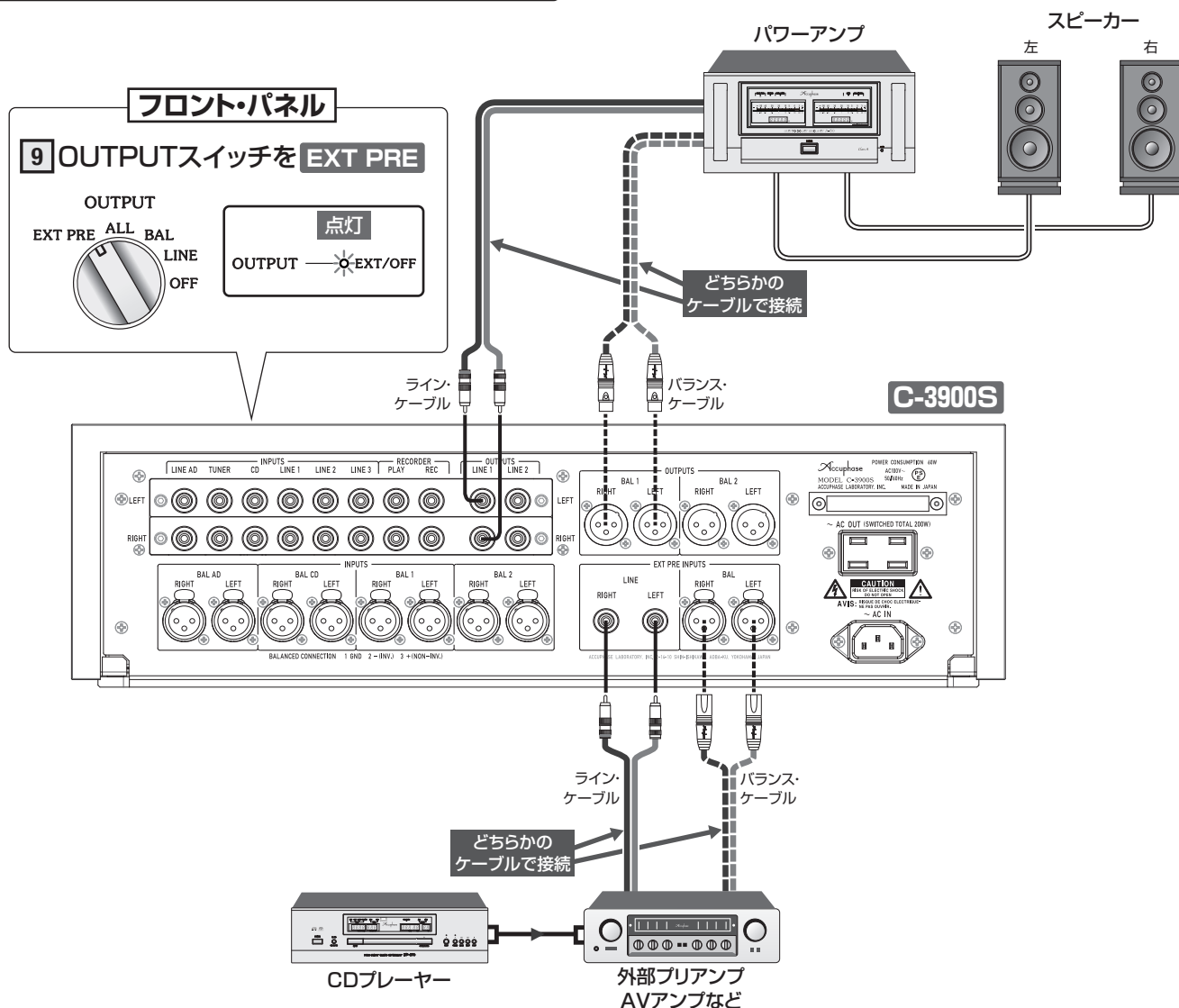
- 1 接続した別のプリアンプの音量が下がっていることを確認します。
- 2 [9] OUTPUTスイッチを“EXT PRE”ポジションにします。
- 3 接続した別のプリアンプで、音量調整など全てのコントロールを行います。

#### 動作時の内部接続

- [24] 外部プリアンプ(ライン)入力 → [22] ライン出力
- [25] 外部プリアンプ(バランス)入力 → [23] バランス出力

#### メモ

- 本機の[1]電源スイッチをOFFにすると、[9]OUTPUTスイッチを“EXT PRE”ポジションにした時と同じ動作になりますので、本機の電源スイッチがOFFのままでも別のプリアンプによる演奏が可能です。
- 下記内部接続はできません。
  - [24] 外部プリアンプ(ライン)入力 ✕ [23] バランス出力
  - [25] 外部プリアンプ(バランス)入力 ✕ [22] ライン出力
- [10] PHASEボタンでPHASEインジケータを点灯させても、位相を反転させることはできません。
- 同一機器同士でバランスとラインの両ケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
- 本機の[5]ヘッドフォン端子からは[2]INPUTセレクターと[12]RECORDERボタンで選択された信号が出力されます。



ご使用方法



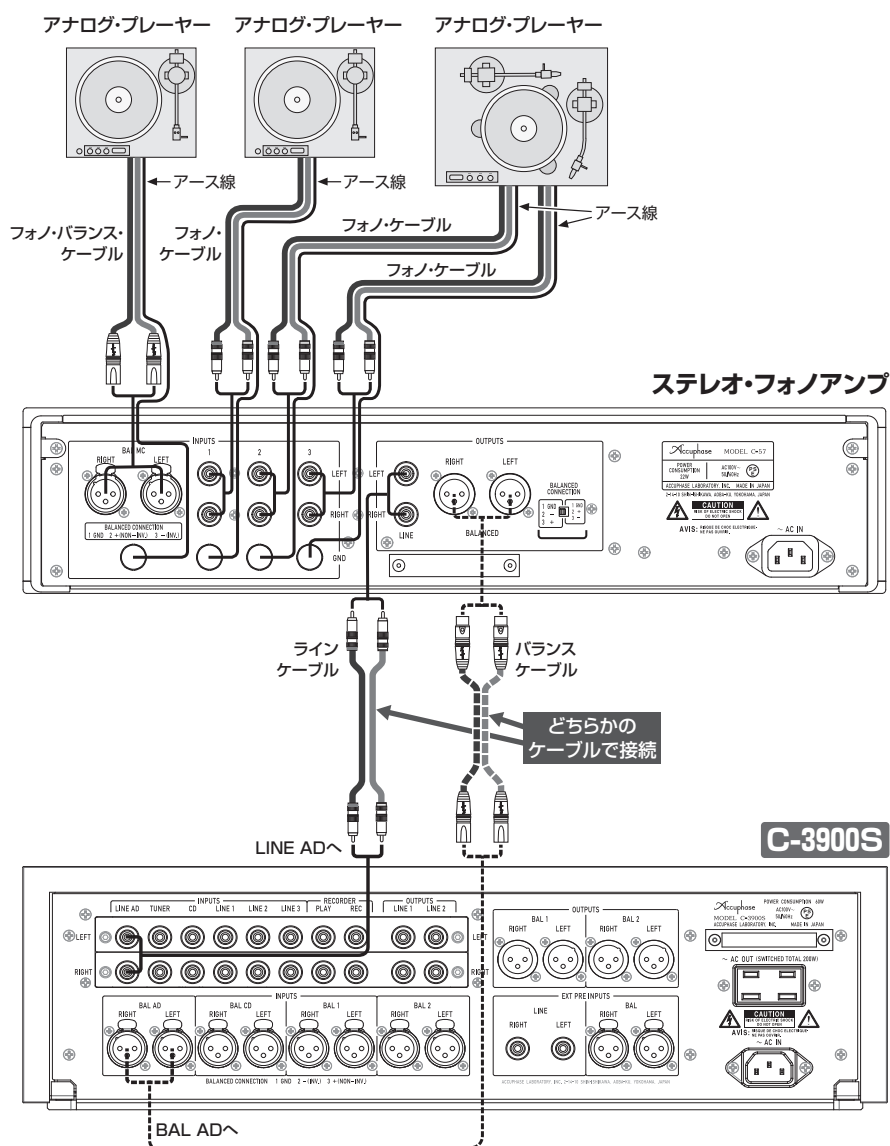
**注意**：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。  
感電や故障するおそれがあります。

## 6.5 アナログ・ディスク(AD)の演奏

アナログ・レコードの再生には、別売のステレオ・フォノアンプが必要です。

### ステレオ・フォノアンプとの接続例

- 注意**
- アナログ・プレーヤーの出力ケーブルは、LEFT、RIGHTを正しくつなぎ、プレーヤーからのアース線はGND端子に接続してください。
  - 本機との接続は、オーディオケーブルを使用しLEFT、RIGHTを正しくつないでください。
  - 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



### 演奏の手順

- 1 VOLUMEが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて、INPUTセレクターでステレオ・フォノアンプを接続した入力を選択してください。
- 2 ステレオ・フォノアンプの詳しい説明や設定はステレオ・フォノアンプの取扱説明書をご覧ください。
- 3 レコード針をレコード面におろし、VOLUMEを上げていくと演奏が聴こえてきます。

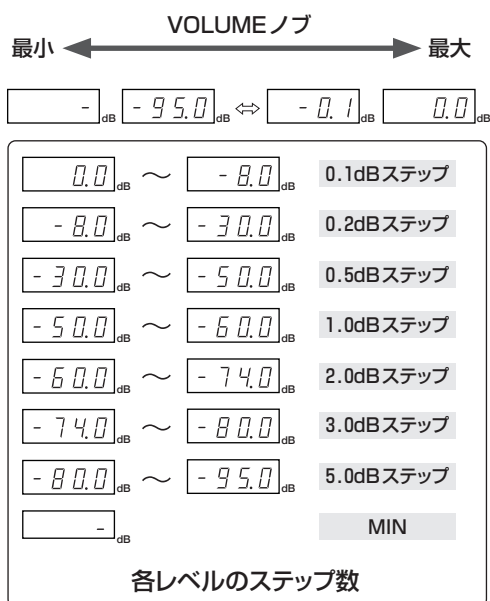
## 6-6 VOLUMEディスプレイ部の《表示モード》変更

18] VOLUMEディスプレイ部の出荷設定表示は『アッテネーター・モード』ですが、『ゲイン・モード』への切り替えが可能です。通常は『アッテネーター・モード』のままご使用ください。

### 表示モードの違い

#### アッテネーター・モード(出荷設定)

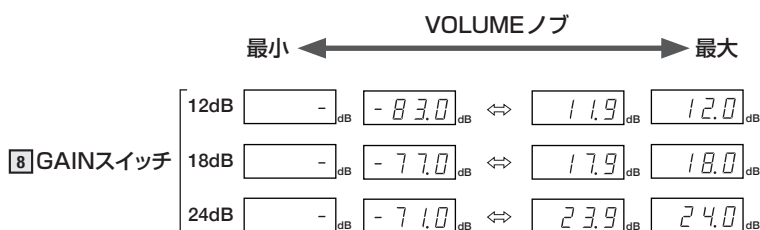
最大値を0dBとした減衰量を表示します。



#### ゲイン・モード

入力から出力までの増幅度を表示します。

8] GAINスイッチで表示が変わります。

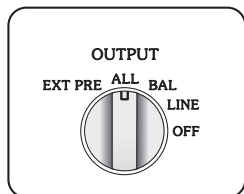


**メモ** ゲイン・モード時に6] ATTENUATORボタンをONにすると、表示に-20dBが加算されます。

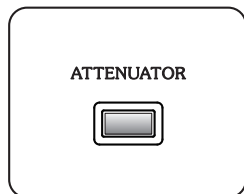
ご使用方法

保証特性

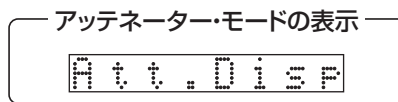
### 表示モードの切り替え方法



9] OUTPUTスイッチ  
“ALL”ポジションにする



6] ATTENUATORボタン  
2秒以上押す



16] 入力ディスプレイ部  
変更後の表示モードを5秒間表示

## 7. 保証特性

保証特性の測定方法は、「JEITA CP-1301A」及び「IEC 60268-3」に準ずる。

### 周波数特性

#### BALANCED INPUT

3 ～ 200kHz +0 -3.0dB  
20 ～ 20kHz +0 -0.2dB

#### LINE INPUT

3 ～ 200kHz +0 -3.0dB  
20 ～ 20kHz +0 -0.2dB

### 全高調波ひずみ率 (20～20kHz、定格出力時)

0.005%

### 入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ (20kΩ/20kΩ)
LINE	252mV	63mV	20kΩ

### 定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2V 50Ω  
LINE OUTPUT : 2V 50Ω

### S/N・入力換算雑音 (GAINスイッチ : 18dB)

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	118dB	-130dBV	113dB
LINE	118dB	-130dBV	113dB

### 最大出力電圧

BALANCED OUTPUT : 7.0V  
LINE OUTPUT : 7.0V  
RECORDER REC : 6.0V

### 最大入力電圧

BALANCED INPUT : 6.0V  
LINE INPUT : 6.0V

### 最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 600Ω  
LINE OUTPUT : 600Ω  
RECORDER REC : 10kΩ

### クロストーク (10kHz)

-90dB

### ゲイン (GAINスイッチ : 18dB時)

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB\*  
BALANCED INPUT → LINE OUTPUT : 18dB\*  
BALANCED INPUT → RECORDER REC : 0dB  
LINE INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB\*  
LINE INPUT → LINE OUTPUT : 18dB\*  
LINE INPUT → RECORDER REC : 0dB

\* ゲインはGAINスイッチのポジション(12dB/18dB/24dB)によって変化します。

### コンベンセーター(100Hz)

1 : +2dB  
2 : +3dB  
3 : +4dB  
4 : +5.25dB  
5 : +6.5dB

### アッテネーター

-20dB

### ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 8Ω以上 (8ページ参照)  
出力レベル 2V(40Ω)  
レベル切替 MIDに対して LOW : -10dB  
HIGH : +10dB

### 電源

AC100V 50/60Hz

### 消費電力

60W

### 最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行412mm

### 質量

25.3kg

### 付属リモート・コマンダー RC-260

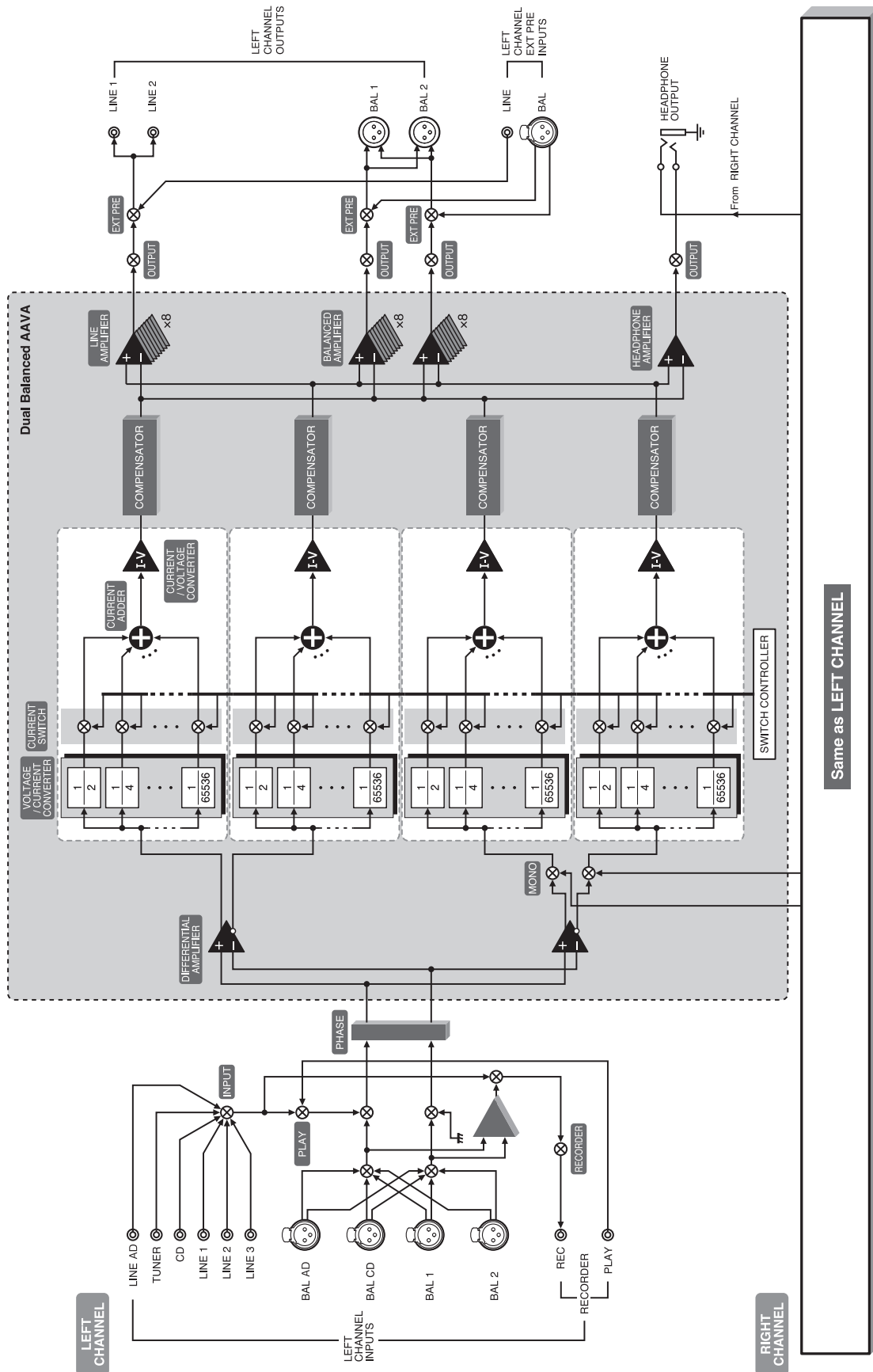
リモコン方式 : 赤外線パルス方式  
電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用  
最大外形寸法 : 50.0mm×200.5mm×21.0mm  
質量 : 190g(電池含む)

### ●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

●本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

# 8. ブロック・ダイアグラム



ブロック・ダイアグラム  
故障かな?と  
思われるときは

## 9. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



### 注意

：接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードの本体側コネクタやコンセント側プラグが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認してください。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
音が出ない。 音が小さい。	電源が入っていない。	電源が入っているか確認してください。
	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っていない。	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っているか確認してください。
	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	<b>2</b> INPUTセレクターや <b>9</b> OUTPUTスイッチの位置が異なる(7,9ページ)。	<b>2</b> INPUTセレクターや <b>9</b> OUTPUTスイッチの位置を確認してください。
	<b>6</b> ATTENUATORボタンがONになっている(8ページ)。	<b>6</b> ATTENUATORボタンをOFFにしてください。
	<b>9</b> OUTPUTスイッチがEXT PREIになっている(9ページ)。	<b>9</b> OUTPUTスイッチをALLにしてください。
	<b>12</b> REC-PLAYのLEDが点灯している(10ページ)。	<b>12</b> RECORDER PLAYボタンを押して、REC-PLAYのLEDを消灯させてください。
片方のスピーカーから音が出ない。	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	ソース側機器や <b>7</b> BALANCEノブの設定が異なる。	ソース側機器や <b>7</b> BALANCEノブを確認してください。
	上記2つの原因ではない場合。	下記「片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法」をお試しください。
VOLUMEノブを回すと、スピーカーからノイズが出る。	高能率スピーカーをご使用の場合、VOLUMEノブを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。	もし「切替動作音」が気になる場合は、 <b>8</b> GAINスイッチ(9ページ)を「12dB」ポジションで使用すると有効です。
音が片チャンネル側に片寄っている。	<b>7</b> BALANCEノブがセンターではない(9ページ)。	<b>7</b> BALANCEノブを確認してください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカーケーブルの極性(+/-)が正しいか確認してください。
リモートコマンドで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。
	電池の極性が合っていない。	電池を正しく挿入してください。
	電池が切れている。	新しい電池と交換してください。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かないでください。
	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離すか、設置の向きを変えてみてください。
表示が消える。	<b>15</b> DISPLAYボタンがOFFになっている(11ページ)。	<b>15</b> DISPLAYボタンを確認してください。

### 片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	本機とパワーアンプとの接続ケーブルを以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●本機の右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	パワーアンプやスピーカーケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	本機またはプレーヤーに問題があると考えられます。さらに手順2を行います。
2	本機の入力ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●プレーヤーの左チャンネル → 本機の右チャンネル ●プレーヤーの右チャンネル → 本機の左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	本機に問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	プレーヤーに問題があると考えられます。

ブロック・ダイアグラム

故障かな?と思われるときは

# 10. アフターサービスについて

## 保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
  - \*ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
  - \*『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
  - \*長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

## 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



## 注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

## その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。  
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

## お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX 045(901)8995

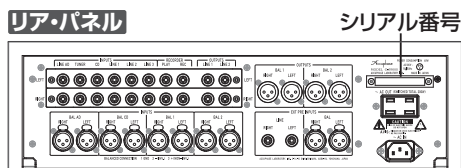
- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。  
<https://www.accuphase.co.jp/>

## 修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく



\* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。





*enrich life through technology*



ACCUPHASE LABORATORY, INC.  
アキュフェーズ株式会社  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10  
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959  
<https://www.accuphase.co.jp/>